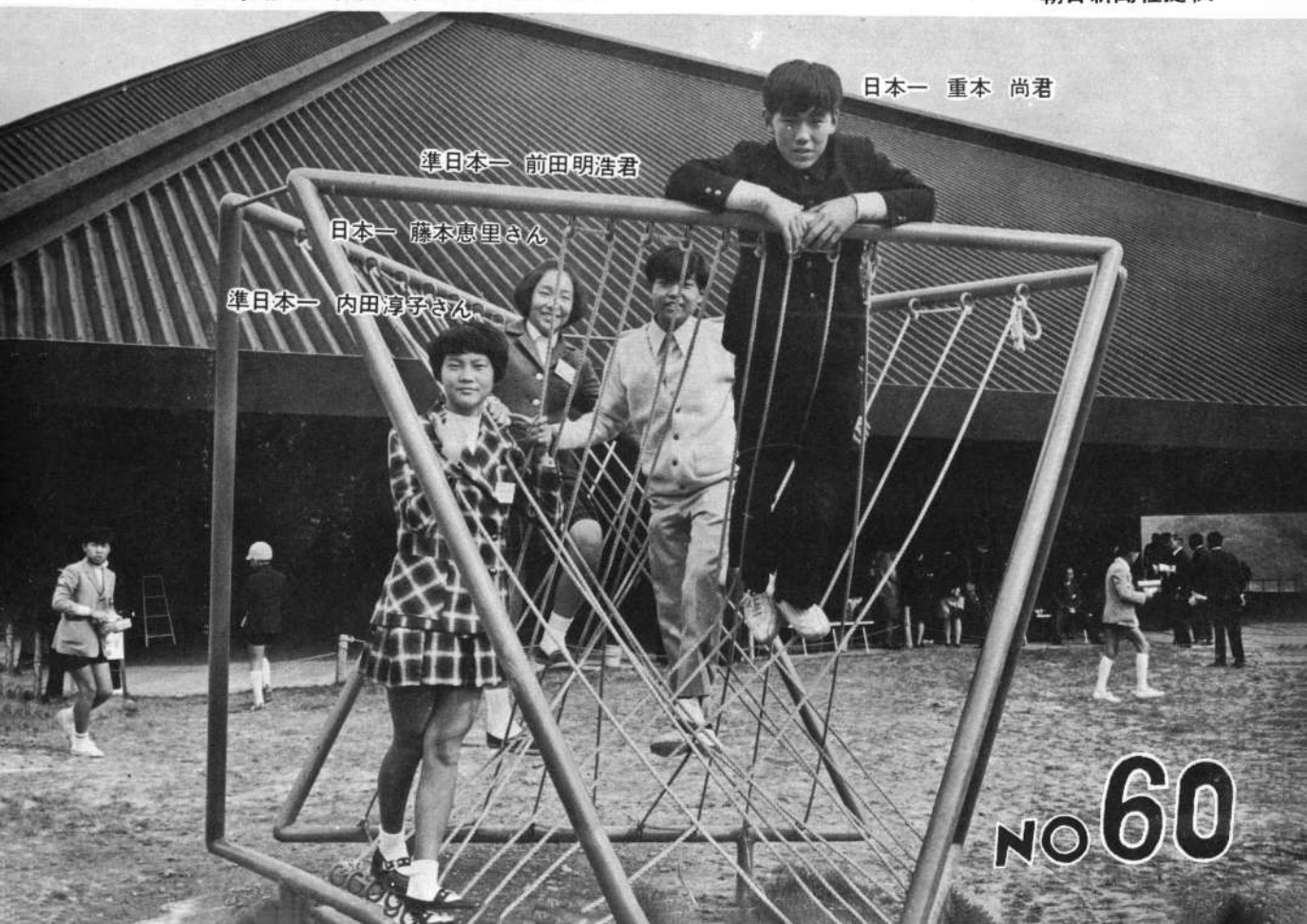


健康教育

☆ 三本松の教育……………	2
☆ 創造力と情操豊かな子どもの育成……………	6
☆ 健康優良児日本一	
重本 尚と大田小学校……………	9
重本 尚君を担任して……………	10
尚の成長をかえりみて……………	11
☆ 健康優良児の表彰に思う……………	12
恵里さんに贈る……………	16
この12年間をふり返って……………	17
☆ 二人の健康優良児全国特選に喜ぶ	
根雨小学校の榮譽……………	18

日本一健康優良児表彰式のあとで

朝日新聞社提供



日本一 重本 尚君

準日本一 前田明浩君

日本一 藤本恵里さん

準日本一 内田淳子さん

NO 60



三本松の教育

香川県大川郡大内町立三本松小学校長

村 上 稔

沿革大要

年 次	事 項			
	施 設 等	体 育 活 動	児 童 活 動	合 奏 部 活 動
明治 5	11月勝覚寺境内に第4区小学校として開設			
大正 12	現在地に新校舎なり移転する			
昭和 8	赤沢正一（神風）氏健康優良児準日本一に選ばれる			
26			少年消防クラブ結成	
27				リード合奏部結成
28				
29	ミルク給食開始	県体育優秀校賞		
30	夏休みに林間学校を開設完全給食開始	県体育研究指定 同発表会（遊びの純化）		
31	（五小中学校の臨海学校と交互開設）		郡消防連合会長賞	
32		体育指導者連盟賞	国家消防本部長賞 貯金組合郵政大臣賞	米国通商使節団歓迎演奏（高松市）
33				
34				徳島県器楽合奏交歓会招待出演
35			日本消防協会会長賞	
36	黄帽を制帽とし集団登下校を開始する		鉄道こども会結成	
37	特殊学級開設		県交通安全協会会長賞	マッカーサー駐日大使歓迎演奏（高松市）
38	県道徳教育研究大会		郵政省貯金局長賞	
39			交通こども会知事表彰、郵政省貯金局長賞	
40				
41	三期で 校舎全 面改築 センター方 式の給食 となる	鍵っ子学級 を併設する	こども会全国表彰（毎日新聞社）	岡山県器楽合奏大会で金賞を受ける
42				NHK全国音楽コンクールで合奏部門県代表と
43			学校給食研究会	なる
44	環境整備完了（施設充実委員会） プール完成 交通公園、造園完成	プール水泳開始		リード合奏発表大会十回以上参加校賞
45	全連小刊「全国特色ある研究校便覧」の施設設備の部に掲載される 県算数研究会			
46	区内総合研究会（指導過程の現代化）県学校緑化優良校賞、県国花い っぱい優良校賞、交通安全優良校（全日本交通安全協会）			
47	阿讃教育研究大会、郡学校保健教育 研究会、県一位、日本一健康優良学校	県体育優良校賞	第二回県少年野球大会優勝 郡ソフトボール大会男子優勝	

1. 本校の概要

本校の健康教育は、神風（赤沢）正一氏（昭和8年度健康優良児準日本一）が大活躍した昭和初期から20年代までの運動競技有名校に始まり、これに続いて、少年消防クラブ（全国表彰2回）リード合奏部（米国通商使節団等の来県歓迎演奏に県代表2回、全米にもテレビ紹介）交通こ

も会等々が結成された児童活動育成期がある。声楽家林康子氏（東京芸大）を生んだ情操教育が本校の保健体育活動に大きく影響して30年代には「体育の生活化」（副題 遊びの純化）を主題とする体育研究校となり、副題の追求から道徳教育の研究を派生させて、体育指導者連盟賞を受けている。

昭和41～44年4月に校舎の全面改築が成り、44年には新装成って、地域住民の学校への期待の一段と強化された中で40余年の実績と研究を統合し止揚して「生涯自己実現を続ける児童の育成」をねらって健康教育という全人教育を目標とし、健康優良学校運動による目標達成の指標を掲げた。

そこで44年には、学校環境衛生基準に則り、学校の機能と動線を柱にし全校交通公園方式による学校造園を進め10月一応の完工をみた。折りしも新指導要領実施の年で教育改造の期であった。本校では、教育改造の最尖端は師弟のふれあいにあるとし、そのふれあいの中で最も重要なものが授業時のふれあいであると考え「指導過程の合理化」の研究に取り組む。

昭和45年度には、県算数教育研究会（主題：日常の事象を数理的にこらえる）を引き受け「指導過程の合理化」の研究をさらに進めて公開した。

昭和46年度には「指導過程の現代化」と主題を止揚して研究成果を、区内総合教育研究会を本校で開催し自主発表をした。

昭和47年度は、教育100周年であり、本校現地移転50周年でもあるので、これを記念して、40余年の歴史的成果をまとめて、全日本健康優良学校中央審査に応募し、はからずも日本一健康優良学校となる。

2. 校区「三本松」の概要

本校は香川県大川郡大内町三本松862番地に在り、高松市より国鉄高德線で37.9kmの三本松駅下車、徒歩7分で着く。

県の最東端の大川郡にあり、昭和30年の大内町（町村合併）以前の三本松町で、県東部の経済交通文化の中心地である。

校区三本松は、幕末のころ、砂糖会所が置かれ東讃地方の糖製品が集散した港町として拓かれ、現在は手袋製造業を主軸とする商工の町として100年の歴史をもつ土地である。0.7km²に6,500の人口が密集し寸尺の空地もなく人家商社が連たんする過密地である。人口の流動が大きく定着民の45%が転入者である。道幅の狭い旧市街と高校移転跡に最近できた新商店街とが互に拮抗しており、消費水準が高く、商業娯楽、特に飲食料理店が多くて、深刻に都市化現象が煮つまりつつある土地である。

住民は、極めて勤勉進取で企業経営には優れた実力をもっており、ひたすらに店舗商社の経営に没頭している。

とはいえ、学校に対しては協力的で、学校の発展や児童の育成には積極的な取り組み方をする。PTA活動や各種団体活動や諸々の社会教育学級も活潑で、はやくから郡・県の模範的位置を占めてきており、近時こども会育成活動も、健全育成の方向に体質改善されはじめ、強化充実が顕著になってきている。

このように、大気汚染はまだないが校区の自然と社会は、教育的条件を著しく欠いておるわけで、市民生活や青少年教育については、大きく考えなおしてみなければならぬ問題をもつ土地である。

ここに育つ児童は、利発で人なっくくて積極的ではあるが、ひ弱で根気乏しく体力がない。この土地柄とこの児童像とは、三本松教育の大きな課題であり、小学校教育に大きく考えねばならぬところである。

3. 本校の教育目標

地域と学校と家庭が調和的な体制を整え

じょうぶな体

たしかな心情

優れた知力

を養い生涯自己実現につとめる児童を育てる。

この生涯にわたる全人教育を健康教育を柱にして、健康優良学校運動によって達成を期する。

4. 本校教育の重点

私は目標を上のようにおき、この目標達成にかかわる他の三活動側面について、次のような事項を考え、学校経営案に明示している。

(1) 統合活動の側面では

職員や児童が教育目標を内面化して団結親和しながら献身的な活動を展開するために、次のような指標を掲げている。

ア、職員は信条高く高貴に生きる。

〔信条〕

○三本松小学校教育に献身する。

○三小教育で自己実現をする。

○創造的に任務を遂行しながら全体と調和して自己能力の極限に挑む。

イ、職員は高い教育実績をもつ。

○学校教育の目標達成が研修であり研究である…
…（学校づくり）

○「指導過程の現代化」につとめる…（児童づくり）

ウ、理想実現のため、日々確実な生活をする。

○「健康教育の徹底」で確かな学校生活のできる
こどもをつくる。

○生活指導に力をいれる。

エ、児童もまた、全き生活につとめる。

〔児童像〕

じょうふで（肉体的にも精神的にも社会的にも健康で）	）たしかな こどもになる
手をつないで（確かな人間として他と調和して集団発展に献身する）	
のびていく（意欲的に行動し成長する）	

(2) 適応活動の側面では

本校の社会的・自然的環境に積極的に適応し、目標達成につとめる。そのために必要な資源を獲得し条件を整備していく。

○住みよい学校づくり

学校環境衛生の確保

生活に便利で安全な学校

緑化・花いっぱい、心やすまる学校

○力のつく学校づくり

愛される特別教室

こどもを吸いつける施設

施設設備の機能拡張と充実整備

○地域や機関に支えられた学校

町教委・PTA・学校保健委員会との交流統合
社会教育活動・住民活動と学校教育との調和と
独自性をはかる。

(3) 価値維持活動の側面では

個人の緊張を和らげ、社会的価値を個人に内面化して能力向上をはかる活動で学校では指導の面である。

ア、生活指導

生活指導を一切の指導の基盤とし、第二道德、第三体育もここを源流とする。

○ 規律と敬虔と活力のある日常行動をさせる。

○ 規範的意識が確かで基本的行動様式が確かにできるこどもにする。

○ 協力調和しながら所属集団の発展に貢献する態度を育てる。

○ 個を見極め、一般知能・特殊知能の両面から、その生活の向上を導く。

イ、体力づくり

走と泳を中心にして、校区の社会的・自然的条

件がつくったこどもの体を補強充実するとともに、優れた健康体に育てる。

○ 先ず鍛える——鍛えることによって創造と自信と強健が生れる。

○ そのために保健と安全の徹底をはかる——
健康観察、保健安全指導、保健の日の放送指導

全体検尿。全体心電図検査。

○ 鍛えることを日常化する。

50m砂場、校内マラソンコース、自然遊園、自然園
対外試合に積極参加

運動場の整備開放

特別強化練習（クラブ活動）とスポーツ少年団育成
全校体育特設

○ 安全対策

環境衛生基準の保持

学校安全の日…安全点検

ひ難訓練………学期一回

交通安全………全校交通公園による日常

訓練。歩行安全手帳。

自転車運転許可証。

○ 学校病対策

・近視・う歯・肥満児対策

・肝・心疾患予防

・歯磨・うがい・手洗い・換気の励行

○ 給食指導

・低学年は偏食等の欠陥矯正を中心に、上学
年には残菜のない食事を。

○ 良習慣形成

・保健委員会活動・週番活動・学級指導による生活指導

・日課表による生活

・家族ぐるみの実行表（強調事項について）。

○ 態度育成

・学校保健委員会・PTA保健部・補導部の
学習活動や事業活動を通して

・月刊「よい子のくらし」を家庭配布

・学校保健年間計画表を部落保健会に配布。
等をして地域の健康思想と住民保健活動を
稠密化して、成人から児童への影響をねら
う。

ウ、心情づくり

日常行動を通した生活指導や特別活動を強化し、
先ず持続的性格の育成をはかり、生涯まともな生
活を続ける根基を培い、そしてロゴスもバトス

も豊かで確かに生きぬく態度を養なう。

- 規範意識を育て、規範正しい生活をさせ、逸脱と不安のないまともで確かな生活をさせる。
- 特別活動 特に児童活動、学級指導を強化して適応性と調和性のある生活をさせる。
- 真摯で敬虔で遵法を途として全体に調和し、その集団発展に献身する生活をさせる。
- 個性的行動を助長し、個性の育成につとめる。
- 学校造園（緑化、はないっぱい）、一鉢運動、飼育栽培等をさらに進める全校児童の運動を強化する。
- 音楽（就中リード合奏）図画工作、書写、作文、家庭、体育の指導に力を注ぐ。
- 教育相談（毎月2回定期）を盛んにし、学校家庭の総力で児童の善導をはかる。

エ、知力づくり

- 本校の昭和45～6年来の研究であった「指導過程の現代化」の研究から「行動思考から概念化へ」という発生源的な学習指導法を中心にした文化創造型の指導過程を策定した。（この研究成果の詳細は割愛するが）行動科学的な立場を重視し児童の具体的な行動過程でエートスをかため、パトスとログスをつくりあげていく指導を、さらにさらに開拓し深化することによって知力づくりとする。
- 自発（好奇心含めて）を自信（興味を伴なう）にまで止揚した自主学習の態度をつくる。
 - よくわかる学習指導のために、教材構造図をさらに学習構造図化（時系列におき作業区分をした）して授業をする。
 - 適応力を高めるために適切な資料機器を用意して授業をする。
 - 学習の実時間確保につとめる。
 - 学習の個別化につとめる。
 - 5、6年に一部教担制を試みる。
 - 基礎学力の徹底を期する。

大略以上のような経営案で、今日の三本松教育は動いている。

5. 日本一への歩み

昭和44年4月、上のような学校経営案を作った。

（現在まで逐年若干の修正を加えて）そして日本一健康優良学校受賞を学校評価の一里塚と考えてきた。

すなわち、昭和44年（校舎全面改築完工の年）は、学校造園の研究と実施をした——学校機能を活かした

学校造園で、学校造園の嚆矢と気負っている。

昭和45年度には、県算数研究会を引き受け、主題「日常の事象を数理的に取り扱う」の中で「指導過程の近代化」の考究をし、行動科学を基底においた指導過程を追求し、できる限り外部指導者の援助をさけ（本校職員自力の研究のために）自校研究で成果発表をした。

つづく昭和46年度は、「指導過程の現代化」と主題を深化し、自校自主研究で本郡第一区総合研究会を引き受けて発表会をもった。

学校病対策としては、本校の最も劣っている近視、う歯対策に専念している。治療率は常に100%であるが新生う蝕は後を断たず、近視も百万手を尽して漸くやや下向傾向という実状で、ただ今では、学習姿勢の矯正と女児の断髪という極めて陳腐な問題にたち帰っている。

体力づくりについては、新聞紙上に「三小の競技会荒し」と喧伝されたように、並々ならぬ手間をかけている。本校が行動科学に基づいていろいろの施策をしているので、体育練習も当然鍛練主義である。あの厳しい鍛練の中で、児童は目に見えて上達（創造と自主性を身につける。）していく。そして指導者側も大きな自信と生きがいにもえて師弟一体の努力をする。この本校の行動科学に基づく鍛練主義（能力の極限に挑む）に、もし保健と安全がなかったら、教育でなくなり、鍛練は単なる暴力になってしまう。こんな考えで保健安全に大きな努力をはらっている。全校検尿検便も全校の心電図検診も、そのためである。

学校運営は重層構造方式をとっている。各分掌ごとに、学校経営案と企画会議の線にもとづいて、指導方針、年間計画を策定しこれを集大成して「三小の教育」という実施計画書をつくり、運営重施の稠密化に資している。（内容では、特別活動が大半をしめたものである。）

今まで、学校は親（地域住民もふくめて）の子に対する影響力を単眼視してきたと思う。本校では、親が子に及ぼす力を大きく考えている。（親の立場の独自性からの力、教師とベタベタの親の在り方ではない）そこで、親の教育、父兄の学習、地域住民がする教育活動の助成に力を注いできた。昭和45年度には、従前200名近い人員をもっていた実行委員会の制度を廃して、20

余名の評議員制に改組し、企画と執行を区分し、標準的な組織に帰えし運営の正常化をねらった。そして、学年学習会や部落保健会や部落こども会育成会等ならびに学校保健委員会やこども会育成者連絡協議会等で、住民学習と住民のする教育活動を強化してきた。こうして学校教育および教育一般の理解をはかり、住民の教育活動の振興を策し、校区の教育水準を向上させ、その中で親から子への教育力の増大をねらってきた。

技術的には、学校保健委員会等に出す資料綴は、学校保健年間計画や「三小の教育」に示めた系統により、校医・職員その他の関係者の解説を集録し、これによって指導者養成をねらい、部落活動推進を（手引き書として）ねらっている。他に一般家庭には「よい子のくらし」（月刊）を配布している。

3. あとがき

私どもは、このように徹底？した計画実施で、日本一健康優良学校の栄誉をいただいたのであるが、静かに現実を見つめてみても、何も日本一にふさわしい顕著なものはないようである。日々をこの学校で過している者は、本校らしい時間経過の中で多忙に追われて何もわからない。

第三者の目で、よく見つめていただき、ご指導いただきたいものであり、あわせて今後の道標もたててもらいたい気持ちである。

本校が本年立候補して、県一位、日本一を一発で獲得したのであるが、このことを本校では、次のように考えている。

① 学校保健法改正の中間報告の歌い文句が審査当日の出し物になっていた。

② 中間報告の強調点を、本校がすでに実施したり、年々積み重ねていた。

等で、外来者も全く保健くさくないと評するほどで、まことに機会に恵まれたわけである。拾い物をしたようである。が、ただひとつ、権威があつて水準の高い全日本健康優良学校審査制度で評定されたので、私どもの独善や自己瞞着だけではないことが明かされたことをよろこびとしている。

これからも努力し、小学校教育の発展のために、健康優良学校運動にそって、この経営案を修正しながら、三本松らしい教育をより高めようと考えます。

（具体的な実際活動や施設の紹介は、学校教育目標や経営方針によって、意味するところが変わってくるものであるので、あえて割愛させていただきました。）



創造力と情操豊かな子どもの育成

富山県東砺波郡上平村皆穂小学校

養護教諭 山 本 朝 子

1. 地理的環境

当校は、富山県南部、岐阜県境、海拔 330m～1000m以上の山々に囲まれた山村で、冬期間は2月から4月まで積雪で陸の交通が途絶し、今なお合掌造りの民家が点在し、むぎや節、トイチンサ節、こきりこ節など民謡の宝庫ともいわれており、夏期は、金沢から名古屋までの名鉄バス、国鉄バスが五往復、冬期の交通機関は、庄川のダムを利用し、小型船をただ一つの交通機関としている。

当村は人口1101名、戸数 280戸、面積 94.2km²、小

学校が2校、中学校が1校、みどりの山々に囲まれ、すみきった空気を吸い、公害ゼロというすばらしい環境である反面、この閉鎖された、へき地という条件からくるさまざまな弊害が、子どもたちに影響を及ぼし、明るさ、元気さにつけ、なにごとにも積極性が見られないなどの問題がだされ、このような実態から、学校課題を「心身共に健康で創造力と情操豊かな子どもの育成」と設定した。

2. 本校の健康教育のねらい

健康教育にとりかかったのは、昭和30年からで17年

年間になる。学校給食を通しての食生活の改善、生活習慣形成など児童の実態をふまえ、地域の要望などを実現するための教育を進めてきました。ひとつひとつ問題を解決し、健康教育の伝統を守り続けてきた現在である。



運動会に郷土民謡（むぎや節）をおどる

改訂指導要領の総則には、第一教育課程、第二道徳、第三体育と設定されているが、私たちは、第三健康教育と想定したい。すなわち、この「体育」は当然教科体育でなく、知育、道徳と並ぶ体育ということであって、主体的に取り組む健康行動の向上を意味するものと思う「心身ともに健康で創造力と情操豊かな子どもの育成」を本校の学校課題にしているのも、学校保健の教育的な位置づけと体力増強を意図しているからである。

また、私たちは運動と衛生だけに健康教育を限定せず、豊かな人間性の回復を願って、調和のとれた教育を進めるため、健康に関する学習環境、健康のための諸施設、健康指導、体力づくりを計画し実践している。

3. 自ら鍛え生活に役立つ体育活動

当校児童は、体格において男女ともによいが、体力では男女とも走力不良、女子の跳力が劣る、機敏性に問題がある。

直接的な原因として児童にやる気がない、めあてがない、自発的でない、長い冬期間戸外で運動ができない。

このような実態と学校教育の立場、諸施設等の点から次の点を体育の指導方針として実践している。

○ 体力気力の充実を図る

調整力を練り、走力を向上させることを重点目標にし、個人集団としての機敏な行動を高める、教師自身も児童の体力向上を考えた学習計画をたて、目標を明

確にしなければならない。

○ 日常の実践や計画的研修を通じて、特に留意している点は「指導内容および指導上の要点のは握」「いかにしたら運動意欲を持つか」「その量と適正化などを留意する」。

○ 記録化への試みとして、児童に興味と関心をもたせ、積極的に技術能力の向上を図る。「学習カードの利用」スキー検定、水泳検定、陸上短距離、走り高とび、巾とび、器械運動など。

スキーは、運動能力の向上という観点では評価価値が高い。

水泳、級別基準の他に、学年の泳力目標を定め、距離、持久力の養成面でも効果をあげている。

陸上、低学年は、体力測定を毎月行ない、各項目毎に、体育コーナーに展示し効果的な指導を展開するために、特に走力と跳力に重点をおいて実施している。

器械運動は月1回検定を実施し技術の向上を図る。

○ タイヤ運動と、とりくむ業間運動

児童一人一人が自分の体位、運動能力を知り、体力づくりを意識して楽しさの中に自分の体力を伸ばしていくことをねらいとし、1、2学期には、器械運動、陸上運動、固定施設の活用、3学期には、器械運動、なわとび、自校体操など実施し、その他ボール運動、行進、かけ足、リズム、タイヤ運動等を取り入れている。個人カルテを各児童に持たせ、ひとつの種目ができるようになったら定められている点数を記入するようにしている。

当校の児童は一人一個のタイヤとボールを持ち、これにより子供自身で自由に運動や遊びを創意工夫し、グループで、あるいは全校で楽しく運動している。



タイヤボール運動

○ 自然を利用した体力づくり

一月下旬の晴天の一日、雪を求め日光を求めて子どもたちは体を鍛え、技を練ってのスキー大会、地域の人たちは、スキー場へべんとを携えて応援に集まる。また長く憂うつだった冬空も終るころ、校庭の雪上グラウンドで、父兄、幼児を交え雪上運動会が行なわれ、笑いでいっぱいの楽しい一日が送られる。



雪上運動会

4. 楽しく美しい環境で自ら身につけたい健康習慣

○ 美しく豊かな心をつくる環境づくり

(1)校舎裏側に教材庭園造り、職員室、教室の窓から眼下に眺める樹木、池には魚が泳ぎ、一人一鉢づくりの花や盆栽が並べられ目と心にうるおいを持たせてくれる。

(2)花いっぱい運動、学校前、国道筋に花を植え、児童や道行く人々に美化に対する親しみを与えてくれている。

(3)よい環境から菌みがきの習慣へ、菌みがき場の改装をし美しい環境の中から菌みがきの習慣が定着してきている。

(4)清掃活動を通して環境を清潔にする感覚と、お互いに協力しあう態度を養うため、木造の古い校舎であるが床面は水をつかわず、いつもワックスでからぶきし、ぴかぴか光る校舎にしている。

○ 一生身につけたい健康習慣

(1)朝の健康観察、毎朝始業前の10分間、健康観察の時間にあて、児童自身、保健生活反省表により自己観察記録する。また教師は顔色、手のよれ元気がないなどの身体的な状態と同時に精神状態も観察し、観察簿に記入し、異常があったものには、胸に花もようのバッチをつけさせ本人はもとより、まわりの者にも意識させるようにしている。

(2)給食時には、よい子の食堂に全校児童が集まって

食事を共にしながら、偏食、姿勢、手洗い、マナーなどの指導をしている。

(3)月の学習および生活を記入した「よい子のあゆみ」を月1回家庭に持ちかえり学校での生活について、父兄に理解してもらい協力を得ている。

○ 特設時間を設けての保健指導

当校児童の実態を見るに、保健の知的理解が不足し、習慣態度の育成をより多く必要とするために、各教科においては、教育の目標があり、保健指導と関連はあっても実践指導まで進むことはむずかしい、保健学習を特設することによって自分の生活を考え、実践するよう指導する、このようなことから週一時間保健学習を特設している。

5. 地域ぐるみの健康増進

当校の学校保健委員会は、保健活動の中心となりPTA代表、学校全職員、中学校教員、保育所保母、児童代表、地区の代表などで組織され、当地においては、両親共働きの家庭がほとんどなので、夜間に開催され、健康安全の必要から提案される諸問題について協議し、学習環境の改善、安全教育、地域ぐるみの体力づくり等、地域が一丸となって健康の保持増進を推進する母胎となっている。

本年度においては、

(1)校舎裏側に教材庭園が作られ、ベンチ等もおかれ、子どもたちのいこいの場となっている。

(2)国道に横断歩道、年々増加する自動車に対する交通事故防止の対策が熱心に協議され、村の協力により五月に当村で最初の横断歩道が学校前の国道につくられた。

(3)近視予防とテレビについて、近視児童が増加したことについて、原因が協議され、テレビと女子の長髪が問題となり、家庭並びに児童とよく話し合い、テレビについては番組を選んで見るようになり、髪の毛も短かくしている。

6. おわりに

以上本校で実践している1部を記させていただきました。

このたび、日本一健康優良学校に選ばれたこと、感激でいっぱいです。こんな小さな学校で、山深く住む私たちは、子供たちのより大きな成長をねがって、今後は、この名を汚さないように、子供たちの幸福のために、もう一步前進していきたいと思います。



健康優良児日本一

重本 尚と大田小学校

島根県大田市立大田小学校長

静 間 茂 斗

○日本一をよろこぶ

重本尚君が、中央審査を受けるため、上京する朝「日本一をめざして、平素の力を発揮するように、頑張るなさい」と、尚君を励ました。日頃の生活態度のようすなどから、きっと上位群で期待に応えてくれるのではなかろうかと思っていた。

「健康優良児日本一に決まりました」と家庭から知らせを受けた時、予想はしていたとはいえ、念のため問い確かめたほどであった。

この時の感激は、子どもらの望ましい成長と発達を願い求めてきた永い教員生活で一層深いものであった。

当人の尚君はもちろんのこと、ご両親の喜びはひとしおのことと思う。

晴れの表彰を受けて帰った時、全校並びに町民あげてこの快挙を祝し喜びあった。

重本君が、ここまで立派に育ってくるのに本人の精進や家族の協力など、その受けた力は大きいですが、また学校教育の成果、平素より共に苦労し汗を流した友だちらのことも見逃すことはできないと思う。同じ学校の身辺のこととして、誰れもがこの度のこの栄光をひしひしと感じながら決して偶然でなかったと信じている。

このことは、本校の永久の誇りであり、ただ重本君の栄誉にとどめず、これを契機として更に全児童や後々に続く子どもらに、やればやれる自信と健康増進への自主性を育て、ひとりひとりの可能性を伸すことをめあてに学校と地域家庭ぐるみでおし進めたいと思う。

○大田小学校

大田市は、島根県のほぼ中央にあり、日本海に面した沿岸部と、中国山地に及ぶ内陸部から成り立っている。第一次産業の農村、水産業を生活の軸とし、近年では国立公園三瓶山、旧石見大森銀山など観光地として、その脚光を受けている。

市の中心地として大田町があり、そこに大田小学校がある。学級数26学級、児童数 900数名、県下では大規模校10指の中に属している。

本年は開校 100年めを迎え、その永い歴史の間に数多くの成果を納めている。一例をあげれば、戦後理科教育に全校を挙げて努力を傾け、学校放送教育に着手しこの方面の先駆的役割を果たし、また情操教育の一部面として器楽合奏に新分野を開拓し、造形教育にも力を注ぎ成果をあげてきた。近年は道德教育の文部省研究指定校、国語・社会・算数・特活・学校給食等の指導実践研究を積み重ね、追求し実践する子どもづくりに努めている。体育活動においても各種競技大会に出場し、伝統的に活躍し好成績を納めている。

○健康教育への取り組み

経済の高度成長とか国民生活の向上、あるいは医学の進歩などと、人間生活を豊かにしてくれる反面、環境破壊の問題、あるいは交通災害、生活環境の悪化など、まことに憂うべき問題の続出している現今「たくましいからだ」を育てることは絶対に欠かせないことである。その「からだづくり」と表裏一体となって、いつまでもその根底には「豊かなこころ」がはぐくまなければならない。

どんな困難があっても、それに耐えぬく強じんな体力と不屈の意志。これを健全に育て生涯を生きぬく力を培い、生き方を学びとらせ、生きる勇気を養い、そして社会に貢献することを願うものである。

当市も山陰特有の気候区で冬季は殊に屋外体育ができ難く、子ども等の遊びも兎角室内にとじこもりがちとなり、運動不足による障害や肥満児も多く見かけるようになっている。

このようなことから、本校では、職員の共通理解のもとで指導体制を確立し、さらに地域社会ぐるみの協力を得て、からだづくりに努めている。特に学校教育活動全体の中での体力づくりの配慮はもちろん、課外

体育や遊びを通した運動に力を入れている。人工的遊び場も設置しているものの外、特に自然的遊び場の整備と活用法の指導に努め、子どもたちが自然の場にふれ遊ぶことによってもっと粗野性をつけさせたい。このことは、広く地域社会の組織づくりと協力を呼びかけている。

○本校における活動の実際

児童会組織による活動（全員参加）として体育行事（リレー、サッカー、ソフト、ボートボール、卓球、なわとび等大会）年間配当計画により課外に実施している。

重本尚君を担任して



6年1組担任

三反田幸広

「尚君は、みんながさわいでいても、決して仲間に入ろうとしない。友だちのかげ口をしようと話しかけても、とり合ってくれない。多少くそまじめな感じがするが、かえって、それがたよりになるように思う。尚君といっしょに行動していれば、失敗も少いし、安心だと思う。」

「重本君は、いろいろと多くの本を読んでいるように思う。わからないことを聞くと、なんでもよく知っているの、びっくりします。」

「算数や理科の勉強のとき、よく質問をします。先生の話しや、友だちの話しをしんげんに聞いているからだと思います。」

「六年生の学級対抗のリレー大会では、アンカーを、サッカー大会では、フォワードを、ボートボール大会

定期的実施事項

- ・月例体重測定、健康相談、疾病による欠席調査、環境安全点検、安全指導日
- ・毎週下水便所の消毒、清掃用具の点検、保健施設の点検整備、清潔検査
- ・毎日病欠調査、健康観察
- ・疾病、傷害の統計による健康管理の指導並びに治療督励など適時に実施

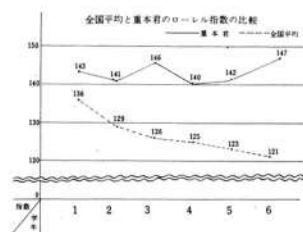
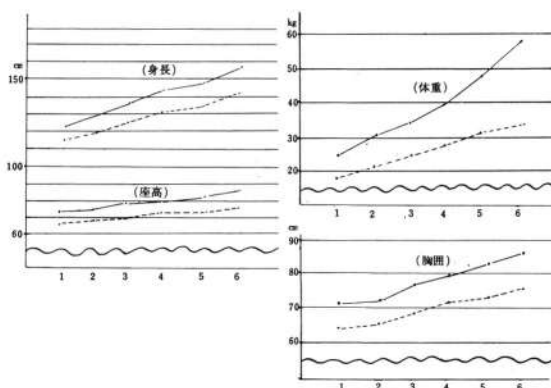
児童会の活動に結びつけ、保健安全指導と健康安全意識高揚につとめている。

では、センターをして、学級の優勝のために、すばらしく実力を出して、がんばりました。」……………

学級における重本尚君の横顔の一部であろう。学級全体はもちろん、六年生全体の信頼を一身に受け、^ミしげさん^ミの愛称で呼ばれている。体位に恵まれ太腹のように思われるが、神経はまことに細かで、級友思いである。人間関係の確立には、常に留意しており、弱い者の立ち場に立った発言や行動がしばしばみられる。その中には、自己の固い信念と納得の上にとる行動であり、また、人柄でもあろう。

健康優良児の候補の話し合いを行なったとき男子児童からは、難なく推せんを受けた。その理由の一つとして、体位の発育の状況を紹介してみよう。

——重本君 ——全国平均



発育表から解るように、順調な体位の発育は、天分として、また、暖かい家庭の協力によることは当然であろうが、反面、今日に育ってきた陰には、本人のなみなならぬ努力を見逃すことはできない。三年終りから陸上部で、更に五年生からスポーツ少年団に加入して、みっちり体力づくり、精神力づくりに励んできている。そして、その成果は、五年生ごろから記録の向上として示してきた。

意欲的に練習にとり組む姿を思い浮かべるとき、どこまでもやり通すという一貫した態度・根性を思い出す、そして、その根性は、単に運動面だけでなく生活面・学習面などあらゆる面に見られるようになった。

宿題などは、常にきちんとしている、学習中は、各教科にわたって、追求的な学習意欲をもって、しんけ

んにとりくみ、成績も大変よい。読書することを好み、読みはじめたら終るまで本から目を離さない姿を、学校でもしばしば見かける。

小学校生活も終りに近づいたこのごろ

「僕は健康優良児日本一のことは、余り意識していない。自分の進歩のために、自分の欠点を直していくことが、日本一の名に應えることだと思う。それには、まず、短気なところを直したい。次に、ものごとにけじめをつけてするようにしたい。そして、今までと同じように友達と仲よくしたい………」と心境の一端を述べている。

中学校生活にいよいよ一歩を印し、大きな希望と夢に向って、力強くすすんで行くであろうと心から祈っている。



尚の成長をかえりみて

母 重 本 節 子

全国各地から選ばれた男子特選児童10人の中で、体格および運動能力テストともに、必ずしも、上位ではなかった長男尚が、このたびの榮譽を受けることができましたのは、朝な夕なに、山陰の豊かな自然の恩恵に浴し、校長先生をはじめ、諸先生方、担任の先生のご熱心なご指導とご支援、それに、クラス全員の涙ぐましい協力と励げましがあつたからこそでございます。

大きな喜びをかみしめると共に、深い感謝の念でいっぱいでございます。

尚はもともと、いわゆる運動神経の発達した子でもなければ、すぐれた素質の持主でもありません。

幼少のころは、相当な腕白者ででかかん坊でした。

年の近い弟や妹と、毎日犬コロのように、とっ組み合い、泥んこになってよく遊び、たくましくのびのびと育ってくれたように思います。

食事は、米飯はあまり好まず、パンが大好きで、芋・豆類が好きでしたから、母親ゆずりの体質も手伝って、ややもすれば太りぎみになりがちでしたが、太り過ぎないように、絶えず注意を怠りませんでした。

小学校に入学してから、扁桃腺炎で発熱することが幾度かありまして、2年生の当初に、摘出術をしてい

ただきました。

そのころから野球に興味を持ち始め、大きなタイヤを拾って来て庇につるしてバットを振り当てたり、プラスチック製のバットにセメントをつめてこしらえた重いバットを振り回し、今にも肩の関節が脱臼するのではないかと、両親をはらはらさせたものです。

当時さかんにやっていたテレビマンガの特訓ぶりを自分なりに工夫して再現していたようでしたが、一度もお父さん（外科医）の世話になるようなけがをしなかったのは、案外、慎重な一面もあったように思います。

4年生になって陸上部に、5年ではスポーツ少年団にも入って、懸命に練習に励げんでいましたが、ついに正選手にはなれなかったようです。

6年生になってはじめて、100m競走の代表選手として、石東オリンピック大会、市および県大会に出場すると聞いたときは、おどろきました。

9月末に行なわれた運動会で大活躍をし、はだしで懸命に力走する我が子に声援を送りながら、ここまで導いてくださった先生方に深謝し、子供の能力の可能性と、教育の成果とを、かいまみた思いがいたしました。

た。

心身共に未熟な尚が、今回の結果から、どのような影響を蒙るか、少なからず懸念していたところですが、周囲の心配もよそに、現在のところ、精神的にも一段と成長し、素直で純真さを失わず、残り少ない小学生生活の総仕上げに取り組み、学習意欲をもやして、こ



健康優良児の表彰に思う

山口県岩国市立岩国小学校

校長 江 上 政 雄

1. 朗報

ジジジ——とけたたましいベルの音に、急いで受話器を取ると、6年6組担任からの電話であった。ちょうど全国健康優良児中央審査会に臨んでいる藤本恵里のお母さんから、全国第一位に選ばれた朗報があったとの連絡でした。出発の際駅頭で、最終審査に選ばれただけでも上々だ、びくびくしないで思いきってやりなさいよ、と励まして出ただけに、驚きもよろこびもまた一しおであった。

翌11月1日、学校に出勤してみると、すでに朝日新聞社から通信部長さんが、校長室でお待ちかねのご様子でした。早速本年度の女子健康優良児日本第1位が、藤本恵里さんに決定した正式通知をいただいた。半信半疑だったこのよろこびが、いよいよ正夢となったわけである。

さて、この大きなよろこびを、学校内でどのように表現するかが、新聞社としては大きな期待であり、また、ある程度の特種ともなり得たでしょう。しかし淡々とした私や校内状況にいささか期待はずれの感、何とか学校の感激を記事にしたいものと、苦心されているご様子がかがわれた。正式の通知をわざわざ持ってきていただいたご厚意に敬意を表し、当人の学級を紹介して、直接学級の児童へそのよろこびを伝えてもらった。しかしそこにもやはりご期待に添えるような感激ぶりは見あたらず、ご不満の色がそこかしこにかがわれて、まことに申しわけなく感じた。全校へは昼食時間の校内放送を通して紹介し、1600名の全校児

つこつと努力している姿は私共を安心させてくれました。

豊かな心と、より一層健やかな身体を養い、持ち前のねばり強さを十分發揮して、巾広い人間に成長して欲しいと願っています。

童・職員と共に、日本第一位のよろこびを静かに分か合った。

そもそも健康優良児審査会参加の当初において、コンクル的なものとして非常な批判の中で、本年度就学児童の全国的な記録は、国民的な純粋な意味があるとして、参加してきたわけである。

2. 本校からの健康優良児

昨年秋本年度山口県代表として、藤本恵里さんが決定されて、本校から出した県代表は3人目でした。その3人共に女子である事は、何か本校のある特殊性に通ずるものがあるとも考えられる。

ちょうど学校では百年史の編集に着手し、いろいろな面で歴史的な諸資料を集めていた折から、この健康優良児についても、一般児童体位の変遷についても、深い関心を持っていただけに、せっかくの機会をかりて、本校の実状を紹介させていただくことにしよう。

まずもって本校から出した県代表3名の体位を比較してみよう。

年度	身長	体重	胸囲	
S. 11.	152. —	41. —	72. —	S. U
S. 16.	148.5	40. —	73. —	K. K
S. 47.	160.2	50.6	84. —	E. F

この3名が表わしてくれた記録は、偶然とは申しながら、あまりにも適中した一般児童体位の総括であることに驚かされた。つまり昭和11年 S. Uさんの表わした体位は、戦前体力増強をめざした、その頂点に近い成果をみせた時期であった。K. Kさんの示す昭和16

年は、いよいよ大戦にふみきった年であったが、残念ながらすでに体位は降下しはじめていた事を、今にしようかとうことができよう。そして戦時統制下の児童が、次の統計グラフに歴然と表われている大きな代償を、あまじて受けなければならなくなったわけである。かくて戦後20数年の輝やかなしい発展を一身にになって登壇した E、Fさんの飛躍的な記録は、まさに今日の児童体位の限りない向上振りを、ありありと象徴してくれているような気がする。以下本校児童体位の伸張振りをみてみよう。

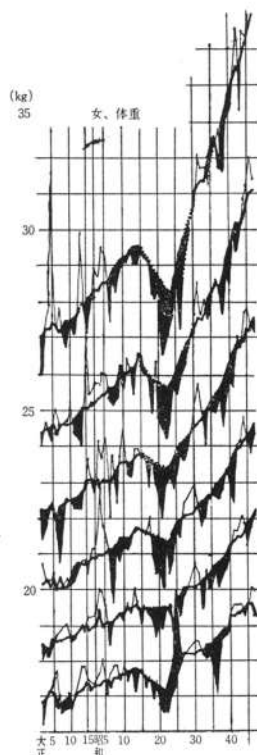
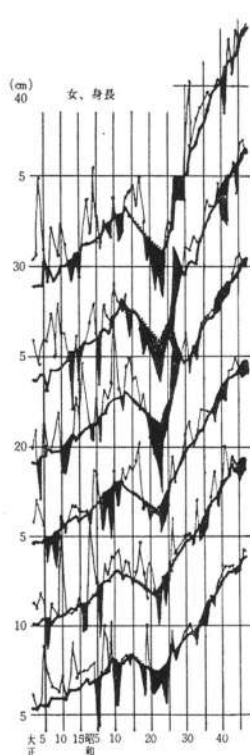
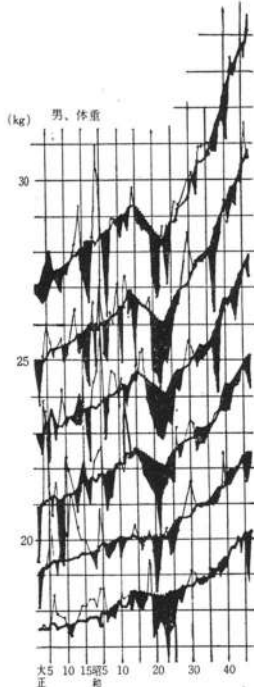
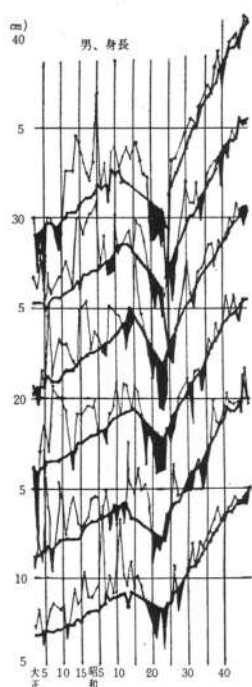
3. 60年間の児童体位

保健室に保存された60年間の身体検査資料をもとに次のような統計グラフを制作した。太い実線は全国平均値で細い実線が本校児童の平均値です。下から1. 2. 3. 4. 5. 6年の順に列べて、本校平均が全国平均を下回った場合は、その折線が示す空間を黒く塗りつぶしてみた。ただし、統計数値の中で昭和15年以降22年までは、全国平均が公表されていないので、一応直線（点線の部分）で結んだために、戦時中の本

校児童体位はほとんど黒塗り部分の下におかれてしまった。もしも全国平均が公表されていたならば、点線の部分におそらくもっと深い谷ができて、黒塗りの部分がうんと少なくなってくるものと思う。

グラフを一見してだれでも気がつくように、戦前、戦時、戦後の三傾向がはっきりと表われている。つまり大正2年から昭和15年前後にかけて、相当な凹凸はありながらも、ほとんど全国平均の太線を上回わり、漸次上昇のみちを辿っている。国策にそった学校体育の振興は、当時学校経営の中心的存在でもあり、隣接の各小学校がそれぞれ工業開発の影響をうけて急に大規模化し、まさにライバル出現の形で少年スポーツ全盛時代を展開し、対外試合に花を咲かせた一時代をつくりあげた。その影響をありありとこの白地の細い実線に感じさせられて、当時隣りの麻里布小学校に新卒で奉職した私にはいろいろな面でしのぎをけずっての競争を、ありありと思い出させてくれる。

ところが、昭和15、6年ごろを頂点として、急な下降線を描いているのは、忘れることもできない戦時体制下への突入であった。そしてこの深い谷間はあま



じなければならなかった、あの物資、思想の統制下に無惨にも扱われた、子どもたちの代償と考えるべきであろう。

しかし、終戦の泥沼からはいあがり、ようやく経済的にも精神的にも自由をとりもどしかけた昭和25年ごろから、急上昇カーブを描いて、一時のよどみもなく今日に及んでいる。しかも、戦前のそれとは全くくらべものにならない急勾配を、どう読みとるべきであろうか？

窮乏のどん底にあった戦後の数年も、自由でのびのびした新教育体制のもと、ようやく児童の健康にも大きく反映して、体位向上へのいぶきを見せている。日本再建も、郷土の復興もまず子どもの健康からと、社会の目もようやく青少年に向けられる時代がおとずれてきた。

新教育の体制づくりに、また児童の体力づくりに一役をかったものが、学校給食の発足であったと思う。駐留軍の放出現物資の裏付け等賛否両論をかかえながらも、全県に先がけてその実施にふり切り、その発展に尽力すると共に、子どもを大切にという相言葉は、学校保健活動の徹底にまず鉦先が向けられた。このようにして精神的な開放と相まって、栄養補給、健康管理の途が大きく開けていった事が、この上昇カーブに大きく貢献し、わずか10年たらずの中に戦前をしのぐ挽回ぶりをみせているのだと思う。

一方目ざましい日本の生産力増強は、当然家庭経済のゆとり、生活水準の向上をうながして、学校給食の良習慣や食生活の改善と相まって、いよいよ十分な栄養摂取の途を開いた。また、他方に座る生活から椅子生活への切り換えは、成長への抵抗を排除して自由で明るい教育体制の中に、体位伸張の大道が切り開かれたものと思う。

ともかくにも、全くたゆみのない上昇線が、このようにして今日に及び、どこまでも止るところを知らない勢をみせている事は、健康教育上の一大成果とも見ることができよう。そしてその頂点に立っているのが、藤本恵里さんであることを考えるとき、まことにうれしい限りであると思う。

しかし、一歩しりぞいて保健室の現状を紹介してみよう。毎日のように朝から数台のベットは満員で、すった・切ったの小負傷は昔ながらの事だが、転んだ・落ちた・ぶつかったと手をかかえ、足をかかえてく

る児童のほとんどが骨折とは、さて一体どうなったのだろうか。本年度当初から学校管理下に起こった骨折事故がなんと11件である。かつては骨折と言へば学校事故の最大のもので、全校あげて神経過敏になったものだった。それが今ではまことに容赦なくやってきて、
「先生今日のもやはり骨折でした。」と養護の先生は報告に来る始末……。一体こんな状況で現在の児童が健康だと言えるのだろうか、私は非常に大きな疑問を持たないわけにいかない。

また、一方子どもの教育は、渋柿の台木に甘柿の芽を接いで育てるようなものだ、戦後の新教育を批判された事があった。台木は多くの脇芽をふいて大事な接木の甘柿の成長を圧してしまうというわけで、成長の盛んな脇芽に注意しなくてはならないとの事だった。どうか今日の児童体位の優越さが、脇芽の成長でないことを願ってやまないものである。

4. 健康優良児表彰の意味

健康優良児中央審査会の模様を、藤本恵里さんのお母さんから聞いてほんとうに驚ろかされた。

全国から選抜された男女各10名ずつの特選者は東京の日本青年館ホテルで付添者と共に合宿の上で、最終審査を受けたわけであった。合宿会場ではお互に馴れるに従って、子は子同志、親は親同志それぞれ郷土や学校の自慢話に花が咲いたようである。藤本さんのお母さんは、話が出はじめるとだんだん自信がなくなり、終にはもうとてもだめだといった失望の念にかられ、憂うつな数日だったそうでした。さてその落胆の主は何だったのでしょうか……。話を聞いて大きな矛盾を感じながらも、その場ではむしろ申し訳ないような心境にもさえさせられたわけだった。

日本一健康優良児候補児20名の付添者から出たよも山話は、それぞれ今日の審査会を迎えるために、どんな苦勞をしてきたかの苦勞話だったようである。話す親の立場から言えば暗にけん制の意味もあったろうし、自慢もあったろう、我こそはのつわ者ぞろい、話に花が咲くのも無理はないとつくづく聞かされた。今その二・三を紹介してみると、

中央審査会出場の決定通知を受けとったほとんどの諸君は、それぞれの学校や家庭で、日本一をめざして猛練習が開始された様子である。あるいは学校全体計画の中で、あるいは学級経営の中で、あるいは子ども会の間で各々の短所を埋めるための計画に従って、相

当徹底した準備が展開されたようであった。中にはすでに小学校3年生のころから、健康優良児候補児として学校経営の中で特訓を受けて、その日を迎えた子もあったとの話だった。別にとりたてた準備は何一つしないままで、中央審査会に臨んだ藤本さん母子の失望も、察するに余りあるものがあっただろうと、深く考えさせられた。

健康優良児の選奨そのものが、そこらに展開されている多くのコンクールと同じものなのだろうか。いな私は前述のように違うと思う。もしも同じコンクールだとすれば、現状のように全国の小学校が組織的に参加する事は、非常に困難な事になるものと思う。コンクールに対する批判の声はすでに高く、もし参加を拒否する学校が相当数でも出れば、この事はまことに意味の薄いものになってしまうであろう。従って各年度の全就学児童を対象とした、全国的、民族的な意味をはっきりして、参加しなくてはならないものと思う。今回藤本さんの地区代表に際しても、また、県代表に臨んでも校内にコンクールの刺激をおこさせないよう、つとめて注意をはらってきたわけでした。ですから前述のように日本一位獲得に際しても、一般のコンクールや競技などで優勝したような感激でなく、もっと真実に対する内面的なよろこびであり、驚きであつたろうと思う。『そうだったのか、おめでとう』と言った形の……。どうか健康優良児の全国表彰が将来とも、一般的なコンクールになり下らないよういつまでも純粋な就学児童の真実の姿であってほしいものと心から念願するものである。

5. 健康優良児の出現性

学校教育や学校経営の中に、この健康優良児が期待されるのだとすれば、本校教育百年の歩みの中で、前の統計グラフが示しているとおり、あの戦前本校平均が大巾に全国平均を上回っていた時代、すでに日本一もまた出現していなくてはならなかったものと考え。ところが現実は今全く正反対の状態、現6年生が入学した翌年から校舎建設がはじまり、せっきくの運動場に次々と新校舎が建設されて、児童の遊びはおろか体育時間にさえも事欠く悪条件が5年間も続いた。そうした中で暫定的な体育施設はお粗末千万、休憩時間は工事現場の片隅や、解体校舎あとの整備不十分な仮運動場で、とうとう小学校を近く卒業しようという6年生である。そうした中で藤本さんの出現は、まさ



建設途上の全校舎（S.47.9）

に偶然という外はないと思う。

表彰状の一節に……学校の指導とあなたの努力が実を結び……とある詞はまことにおこがましい限り、恥じ入る次第である。日本一の栄誉はまさに藤本恵里さん個人の素質と、これを素直に伸した本人の努力と育てあげられたご両親にあるものと思う。もしもしいて申せば最悪の学校環境における学校生活が、当人の成長をさまたげなかったこと、そして真実を見とどけさせようと努力した学校なり、学友なりに、いささかのかかわりあいのあるぐらいのことと私は思う。

それでこそ真の全国健康優良児としての意味があると私は信じたい。



体力テストのひとつま （朝日新聞社提供）

恵里さんに贈る

岩国市立岩国小学校教諭

担任 勝山愛子

健康優良児日本一おめでとう。

この日本一を獲得するために、いろいろと新しいできごとに出合い心配は多かったことと思いますが何一つ特別に訓練もせずありのままの姿で堂々と立ち向かったことを何よりも素晴らしいことと思います。

賞をもらったことでまずあなたはあなたを育ててくださったおとうさんやおかあさんに感謝すべきでしょうね。どこの両親も同じことですが子どもの成長のためにはどれ程の心づかいがあったかはかりしれないのです。今後健康な体をより一層大切にし更にすぐれた体になるように努力していくことが祝福してくださったみなさんに対してむくいる道だと思います。

あなたは自分の短所や長所をしっかりと見つめて進もうとしています。小さなことにこだわらないでさっぱりしている点はあなたの一番の長所だと思います。自分の考えもはっきり表明できるし文章も書きこなせるし音楽もできるし素晴らしい才能をたくさん兼ね備えています。夏休みに原爆に関する本を四冊も読んだことを知って驚くと共に苦しみを受けた人々のことも

しっかりと胸に刻みつけていく努力をしていることを非常にうれしく思いました。

心も体も健康であることで日本一の賞をいただいたことはほんとうに喜ばしいことだけれど、人間としての日本一は簡単に決めることはできません。自分に対してきびしく真実を求めて、どんな苦しみにも負けずに生きている人こそがほんとうにりっぱな人だと思います。ですからたとえ病身な人であっても日本一に値する人はおおぜいおられます。

このたび日本一の健康優良児に選ばれたことは、これからの恵里さんが健康でしかも人間としてもすばらしく生きていくことの出発点ともいえます。このお正月には全国のお年寄りや若い人や友だちからお便りが来て驚いていましたね。`全国の人が見つめているんですね。`と感動して話していましたがこれからの恵里さんがどんなに成長していくか見守り励ましてくれる人がたくさんいることを忘れないで、自分のペースで力一ぱいしかものびのびと進んでいってくれることを先生は心から望んでいます。

片 々 草

■ 11月3日の朝日講堂

型どおりの式次第で、文部大臣・厚生大臣の祝辞のあと、全国健康優良学校、全国健康優良児の表彰。

このとき特に目を引いたのは、壇上に並んだ児童が、付添いのお母さんたちより、はるかに背が高いことであった。

招待席で紹介された昨年度表彰を受けられた校長先生方は、1年前を追想され感無量のものであったことであろう。本誌にご寄稿いただいた先生方のお名前をなつかしく耳にすることができた。

■ 日本一健康優良児のその後については、だれもが関心をもっておられることと思うが、遅ましく、明るく、しとやかに成長された面々の紹介があつて、場内がバアッと明るくなったような拍手が続いた。

(本号編集集中、日本一健康優良校三本松小学校から、昭和8年度準日本一神風正一氏が輩出したことを村上校長の玉稿中に拝見し珠玉を得た思いがした。)

■ お忙しい年末または学年末にもかかわらず、貴重な資料やご所見をお寄せくださいましてありがとうございました。

改めて深甚な敬意を表します。



この12年間をふり返って

母 藤 本 玲 子

昭和47年11月3日は、子供を持つ親として、この上なくうれしく最良の日でございました。

何よりもまず、私どもの日々を暖かく見守ってくださっているすべての方々へ、感謝の意を表せずにはおれません。本当にありがとうございます。

仕事を持つ母親として毎日の忙がしさにとりまぎれ、ついぞふりかえて見る事をしなかったここ2～3年来ですが、このたびの受賞を機会に、今日までの子供に対する心構えが良かったのだろうか、反省して見たいと思います。

恵里は、幸いにして誕生以来病気らしい病気もせず成長してまいりました。これは、生まれた時の、体重3750g、身長54cmという体格にあったと思います。母乳も十分あり、初めての子供ながら少しの苦もなく、体格的にはそのまま、順調に、すくすくと育ったというところでしょうか。

しかし、私も主人も、一貫して子供に注意し期待していることは、足の強い人間、精神的には地に足のついた人ということです。私のひとりよがりかも知れませんが、足はすべての原動力のような気がして、恵里が、ヨチヨチ歩き始めるころから、足にあった靴、戸外でも、できればハダシにさせる、ということは、いつも意識していました。（そのせいか、どうか存じませんが、今や靴を買うときのなやみのたねで、足に合う靴にめぐり逢うのは、何軒もくつ屋さんをまわってようやく、高校生でもこんな大きい方はめずらしいなどといやかされる次第ですが……）

また、食事については、特に分量に気を付けるよりも、質を重視しました。何をどれだけ食べなければならぬとかいうような、きめこまかい事は、まったくにがてです。わたってルーズなものです。これは生活のすべてについて言える事です。体重の増減、成績の上下に一喜一憂するよりも、毎日の子供の表情・顔色・行動を注意していれば、大丈夫だと、のんきな構えで対しているわけです。食事も家内中が好き嫌

いなく何でも食べるのを、あたりまえの事としていすので、何の心配も必要としません。

運動機能の発達面では、家庭でできる事としては、とにかく戸外へ出て太陽の下でのびのびと、という考えから時間の許す限り野山へ出かけることにしています。幸い岩国市近辺は、清流も立派に保たれておりますので、行動範囲は、ずい分広く、四季を問わず出かける事ができます。運動競技等への参加も機会の許すかぎり積極的にやっていますが、取り立てて種目をしぼってトレーニングしているということはありません。

情操面の発達へのしつけは、体格的にもすぐれていて、スポーツをやらせてもにがてなものがないくらい体力に自信を持つ子には、親としてものんきに考えて居れないという気持ちから、物心つくころから読書の習慣をつける事（自分で読めない時期は、ほとんど毎夜寝る時読みかせる）を親の責任と置いていろいろ気をつけました。3年保育で幼稚園に入りましたが、体格的には、すでに他の方たちより、ひとまわりもふたまわりも大きかったものですから、どうしても好むと好まざるとにかかわらず、リーダーシップを取る立場になるため、それが本人に、うぬぼれを持たせてはと、いつもそのことを気にしていました。幸い幼稚園を経て現在まで接して下さった先生方は、すべて私どもの心配を理解してくださって、たいへん感謝いたしております。うぬぼれが、根気のない、地道な努力を惜しむ人間になっては困ると考え、毎日こつこつ練習しなければ上達しないというピアノを習わせ、3才半ころから今日に至っておりますが、ふりかえて見ますと、まったく平凡に今日まで過してまいりました。

ある方は、型にはまらないで、自然な姿でのびのびと成長していると、おっしゃってくださいましたが、健康優良児日本一という栄誉が、面映ゆい感じがいたします。これからこそ、身心ともに健康で、着実に、一步一步をふみしめて、地の塩となる人間に育ってほしいと念願するとともに、親の責任の重大さを、ひしひしと感じているところでございます。



二人の健康優良児全国特選に 喜ぶ 根雨小学校の栄誉

鳥取県日野郡日野町立根雨小学校

校長 三 上 秋 次

昭和45年度健康優良児全国特選、福田道江に続き本年度全国特選川上明子が11月3日、朝日新聞東京本社講堂で表彰を受けた。

校長として本校に赴任して6年、二回この表彰式に出席できた喜びと感激は、終生忘れ得ないであろう。おそらく全国にも類を見ない根雨小学校の栄誉であり、教育のまちがっていなかったことを自負し、学校、PTA、校下挙げてその受彰を祝福した。

(1) 根雨小学校の周辺

山陰線を下り米子から分かれて岡山に向って1時間、伯備線の中国山脈に抱かれた人口7千の小さな町である。根雨駅の正面に建つ老校舎は、昔の威容を誇りながら過疎の波に抗しきれず、6学級196人の小規模校である。しかし静かな山脈に囲まれ、日野川の清流、人情の素朴さは未だ公害騒音から辛うじてのがれている。恵まれた環境に包まれた子どもたちに、明るく健康に育つ教育を願ってきた学校経営がこの小さな学校から全国特選児2名を出したのかもしれない。来年も再来年も健康優良児を出そう。

それは、学校の願いでもあり、子どもたちの目当てであり、強い子どもに育てようとする父兄の相言葉になっている。

(2) 学校教育の構えと健康優良児

昭和44年以来本校は、情操教育を学校の目標として取り組んできた。情操豊かな子どもを育てる。この課題に取り組んだ。調和のとれた人間を創りあげる、心身共に健やかに育てるため、教課・道徳・全領域にこれを取上げてきた。44年45年2か年は研究発表会をもちその成果を世に問い今日なおそれを追求しつつある。その間にあって二人の優良児は生まれた。健康優良児は、体格のみ秀れ運動能力にのみ優る子どもではないことは周知のとおりであるが、ややもすると体のみを求める傾向におち入りやすい。

体にも恵まれ、保健衛生に気をつけることはもちろん、学習をよく努力し、行動は他の模範となり、学級・学校児童会活動に参加し、学校をよくリードし指導でき得る能力を身につけなければならない。健康優良児こそ本校の目指す教育目標、調和のとれた安定した情緒を求める情操豊かな子どもでなければならない。それが学校全体の姿勢であり、その頂点が健康優良児として県一位になり全国特選となつての栄誉に輝いたものであると信じている。

この4年間、みのり多き中から、6学級の小規模校で二人が選ばれ、全国に駒を進め得たよろこびは根雨の子どもたちの多くの底辺があつた賜として喜びに耐えない。

(3) 本校の健康教育の概要

情操教育を大目標とする中において健康教育の目標は『よろこびと協力をもち上げる体力づくり』として取り組んでいる。最後までやりぬくねばり強さを感動ある体育指導、協力しはげまし合つて行く心情を支えに保健と相俟って強い体力づくりにその目標をおき、以下あらましを記述した。

①体育朝礼の実施 火～金 8.40～8.55

・学年別種目、雨天屋内

②ランニング

・毎日トラック5周、放課後、3年以上

③スポーツ校内外大会参加

- ・水泳大会、進級テスト、
- ・町、郡大会優勝
- ・陸上大会(郡)

福田、走巾跳優勝、川上、80ハードル優勝

④根雨子どもスキー場

昭和42年度造成、根雨小学校専用スキー場、スロープ200m、冬季のスキー教室、スキー大会スキー遠足、休日放課後は自由に使い親子とも雪に恵まれた、山陰の子ども達の幸である。

学校から20分、山小屋、便所あり。

⑥ 遠足 年3回、徒歩である。

⑦ スポーツテスト 5、6年

⑧ 保健指導

- ・学校保健だよりの発行、月1回
- ・健康観察 毎日の観察が健康教育の支えとなり成果をあげている。
- ・虫歯予防を重点努力としている。

福田、川上が特選児となったのも虫歯の予防治療が適切であったことが県の審査で高く評価された。

(4) 二人の特選児紹介

○

昭和四十七年度全国特選
川上明子（六年生）



○

昭和四十五年度全国特選
福田道江（根雨中学校二年）

○昭和45年度 全国特選 福田道江 全校 240名
6年生 43名
○昭和47年度 全国特選 川上明子 全校 196名
6年生 28名

● 体 位

県審査	身長	体重	胸囲	座高	備考
福田	161.3cm	50.4 kg	82.0 cm	89.2 cm	県一位 全国特選
川上	158.8cm	49.6 kg	78.0 cm	85.5 cm	同上

● 運動能力

県審査	50m走	走巾跳	ボール投	懸垂力	備考
福田	8.3秒	3.65m	31m	31秒	
川上	8.1秒	3.80m	32.2m	74秒	

二人が全国審査を受けた時、日本一にはなれなかったが、中央審査員は日本一と優秀をつけがたかったことを再三にわたり報告された。この両年度は特に準日本一を設けられたことも、その判定のむずかしさを物語っている。

二人共素質に恵まれ体格、運動能力を比較しても調和のとれた成績である。福田は川上に比べ体格は若干上回っているが、運動能力では川上の方が福田をしの

いでいる。この二人は学業面でも極めて優秀であり、福田は学級、学校の児童会長として、川上は本年副会長に選ばれている。共に児童会の活動を企画し、先頭に立って活躍してきた。性格は明るく級友から信頼され、下級生にもしたわれる性格である。

特に二人の級友がそれぞれ、自分たちのクラスから日本一に押し上げようと、運動の練習をはじめ、保健クラブ活動等々協力とはげまはし涙ぐましいものがあり、受賞を我がことのように喜び合った姿は特筆に値した。

福田は父が教員、母は食糧品店を営み、川上は、父が公務員、母は団体職員として勤めている。二人の家庭に共通したものは、父母が勤めていながらも明朗な家庭である。父母の仕事をよく理解し、自主的な行動力が身につけていること、二人とも末っ子であり、兄姉が、皆スポーツマンであり、中学高校を代表する選手で、家庭がスポーツに理解があることである、また二人とも赤ちゃんコンクールの特選児でもあった。

両方の家庭とも、別に健康優良児にしようとして育てたわけではない。何でも食べさせるようにつとめ、厚着をさせないように、あそび運動は小さい時から自由に伸び伸びとさせた。学校の指導、友だちの協力によって今日の榮譽を得たと語っている。

表彰状の文面に——家庭の愛情につつまれ学校の指導とあなたの努力でこの榮譽を受けた——と記してある。私はこの文面こそ健康優良児にふさわしい言葉であり、福田、川上の特選児にとっても、ぴったりとあてはまるように思う。

(5) 三人目の特選児を目指す努力へ

オリンピックの精神に、栄光ある勝利者になるより、勝利者になろうとする努力こそ尊し、という言葉がある。私はさきにも述べたように一人の特選児をみがき上げようとは思わない。健康優良児を育て上げるには学校は何をすべきか、心身共に健やかな子どもを育成するためには、全児童を優良児に育てなければならない。学業を深め体力をつけ人間性豊かな教育の中に、底辺を広げる努力があってこそ、その頂点が特選児として生れるものであること、それが学校から出た優良児として真にねうちのあることを今さらのごとく考えた。

私は小さな田舎の町、小さな学校ながら、二人が連続して全国特選に推されたよろこびを感じながら、第三番目の勝利者を作ろうとする過程の努力を学校あげて取組みたいと思っている。二人の子どもの受彰を祝い将来の幸を切に祈っている。

昭和47年度健康優良学校・児童

健康優良学校		健康優良児童	
十二学級以上	日本一 香川県大内町立三本松小学校 特選 大阪府大阪市立東三国小学校 兵庫県赤穂市立赤穂小学校 鳥取県倉吉市立河北小学校 愛媛県松山市立湯築小学校	男	日本一 重本 尚 島根県太田市立太田小学校 準日本一 前田 明浩 東京都清瀬市立芝山小学校 特選 佐々木 満 岩手県釜石市立中妻小学校 片山 秀生 栃木県葛生町立葛生小学校 吉田 義幸 神奈川県大井町立大井小学校 中西 利夫 香川県高松市立古高松小学校 平岡 郁郎 鳥取県東郷町立桜小学校 福見 鋭二 岡山県津山市立北小学校 隅田 清澄 愛媛県伊予市立伊予小学校 長谷川 誠一 福岡県直方市立下境小学校
	日本一 富山県上平村立皆蒔小学校 特選 鳥取県鳥取市立米里小学校 愛媛県宇和町立田之筋小学校 福井県清水町立清水東小学校 山形県西川町立水沢小学校	女	日本一 藤本 恵里 山口県岩国市立岩国小学校 準日本一 内田 淳子 三重県四日市市立東橋北小学校 特選 本間 靖子 山形県温海町立五十川小学校 中野 喜代 栃木県栃木市立栃木第二小学校 梶川 万規子 東京都世田谷区立経堂小学校 川上 明子 鳥取県日野町立根雨小学校 石田 純子 島根県松江市立母衣小学校 内田 映子 愛知県南知多町立内海小学校 石川 恵子 徳島県鳴門市立撫養小学校 松田 公子 鹿児島県鹿児島市立原良小学校

お子様の「健康」に！

カワイの保健栄養剤

カワイ肝油ドロップ3号

1粒中 { ビタミンA 3,000国際単位
ビタミンD₂ 300国際単位

カワイ肝油ドロップC30

1粒中 { ビタミンA 3,000国際単位
ビタミンD₂ 300国際単位
ビタミンC 30mg

カワイ肝油ドロップC

1粒中 { ビタミンA 3,000国際単位
ビタミンD₂ 300国際単位
ビタミンC 20mg

カワイ肝油ドロップC20

1粒中 { ビタミンA 1,000国際単位
ビタミンD₂ 100国際単位
ビタミンC 20mg

カワイ肝油ドロップB2号

1粒中 { ビタミンA 3,000国際単位
ビタミンD₂ 300国際単位
ビタミンB₁ (NDS) 1.64mg給食
強化剤

アドリッチ

1g中 { ビタミンA 50,000国際単位
ビタミンD₂ 5,000国際単位河合製薬株式会社
東京都中野区新井2-51-8河合研究所
東京都中野区中野6-3-5